

原油暴落で変わる世界情勢

藤 和 彦

目 次

1. はじめに
2. 原油価格が乱高下する時代に
3. 協調減産と突然の供給途絶要因
4. サウジアラビアの何が心配か
5. 原油価格が2016年後半に暴落する？
6. サウジアラビアに「アラブの春」？
7. 終わりに

1. はじめに

2005年頃に年金資金がWTI（ウェスト・テキサス・インターメディアート）に流入しているということを知り、なぜ年金の資金が入っているのだろうと疑問に思った。原油価格だけではなく不動産も含めてバブル化が進んでいた時代でありこれは問題だと思っていたところ、その後08年にリーマンショックが発生した。このときに私自身何となく嫌な予感を抱いていてそれが的中したのである。16年も08年当時と同じように嫌な雰囲気がある。金融の力は一晩にして国を崩壊させる力を持っているというが、まさしくリーマンショックは一晩にして世界を変えてしまった。私

は、経済の変調や破綻が一国の政治や世界全体の安全保障にどのような影響を与えるのかが注目点であると思っている。80年代のレーガノミクスから、「世界経済は資産効果で成長させトリクルダウンで富を回す」という構造に変わり、第1次、第2次石油ショック後のように原油価格が下がっても先進国には有益になっていない。むしろ原油先物は国際金融商品と言っても過言ではなく、原油先物が下がればそれに連れて株も債券も下がる。資産価値が下がれば逆資産効果が生じて経済も変調することになるが、今まさしくそのような事態が起きているのだと思う。更に私は著書の中で金融危機が来るのではないかと書いたが、シェール企業が発行している大量のジャンク債がデフ



藤 和彦（ふじ かずひこ）

独立行政法人経済産業研究所 上席研究員。1984年通商産業省（現・経済産業省）入省後、エネルギー政策などの分野に携わる。2003年に内閣官房 内閣情報調査室内閣参事官、11年に公益財団法人世界平和研究所主任研究員、16年4月より現職。著書に『原油暴落で変わる世界』（日本経済新聞出版社）など多数。

（本稿は2016年5月31日に日本証券アナリスト協会で開催された講演会の要旨である。）